

作成日 平成 25 年 6 月 10 日  
改訂日 令和 4 年 5 月 16 日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ライトクリスタル S 粒剤
製品整理番号	BA107
供給者の会社名称	株式会社ウォーターエージェンシー
住 所	162-0813 東京都新宿区東五軒町 3 番 25 号
担当部門	ケミカルサービス事業本部
TEL	03-3267-4073
FAX	03-3267-4106
緊急連絡電話番号	同 上
推奨用途および使用上の制限	不快害虫駆除剤

### 2. 危険有害性の要約

#### 化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	分類できない又は区分に該当しない	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入）	区分に該当しない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分3
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分3
	オゾン層への有害性	分類できない

#### GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	水生生物に有害 長期継続的影響により水生生物に有害

#### 注意書き

##### <安全対策>

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- 環境への放出を避けること。

##### <応急措置>

- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

- <保管> ・日光から遮断すること。乾燥した場所に保管すること。容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。
- <廃棄> ・内容物及び容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名又は一般名	①昆虫成長阻害剤 ④担体	②乳化剤	③混合助剤
化学物質を特定できる一般的な番号	①CAS No. 有り ④CAS No. 有り	②CAS No. 有り	③CAS No. 有り
化学式	①非開示 ④非開示	②非開示	③非開示
成分及び濃度又は濃度範囲	①昆虫成長阻害剤 非開示 ④担体 非開示	②乳化剤 非開示	③混合助剤 非開示
官報公示整理番号（化審法）	①化審法番号有り ④化審法番号有り	②化審法番号有り	③化審法番号有り
（安衛法）	① — ④ —	② —	③ —

## 4. 応急措置

吸入した場合	被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静にし、当該 SDS や製品ラベル情報を医師に示して直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類、靴を脱がせ、速やかに製品に触れた部分を水または微温湯を流しながら洗浄する。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は直ちに医師の診断を受ける。
眼に入った場合	直ちに大量の清浄な水で最低15分間眼を洗浄する。コンタクトレンズを着用している場合は直ちに外し洗浄する。瞼の裏まで完全に洗浄し、直ちに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに口内を水でよく洗浄し、直ちに医師の診断を受ける。嘔吐物は飲み込ませないようにする。
急性症状及び遅発性症状並びに最も重要な兆候及び症状	知見なし。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	特になし。
医師に対する特別な注意事項	特になし。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	本品は引火性がなく、消防法の危険物適用外(非危険物)ではある。
使ってはならない消火剤	知見なし。
火災時の特有の危険有害性	知見なし。
特有の消火方法	周辺火災の場合は、速やかに容器ごと安全な場所へ移す。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	煙等の吸入を防ぐための適切な呼吸保護具等を着用する。また、保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 作業に際には必ず保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉じんを吸入しないようにする。
環境に対する注意事項	漏出した製品が河川等に混入し、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出物はスコップ、ウエス等ですくい取り、または吸引、掃き集めて回収する。 回収物は密閉できる空容器に回収し、関連法規に基づいて処置する。
二次災害の防止策	知見なし。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

技術的対策  
局所排気・全体換気  
安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
必要に応じて全体換気、局所排気を行う。  
取り扱う前に安全データシートを理解した上で使用する。  
換気の良い場所で取り扱う。  
皮膚、粘膜、又は着衣に付着したり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。  
取扱い後は手、顔などをよく洗い、休憩所などに手袋などの汚染保護具を持ち込まない。  
密閉された場所における作業では、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着用して作業する。

接触回避  
衛生対策

『10. 安定性及び反応性』を参照。  
取扱い後は手をよく洗うこと。

## 保管

安全な保管条件

保管場所は、食品、食器、飼料などと区別し、小児などの手の届かない所で、直射日光が当たらない乾燥した涼しい場所にする。

安全な容器包装材料

他の容器に移して保管しない。  
消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。  
ポリエチレン等の樹脂製容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会(2014年度版):設定されていない。  
ACGIH(2013年度版) :設定されていない。

設備対策

特になし。

保護具

手の保護具:ゴム又は、樹脂製手袋を着用する。  
眼、顔面の保護具:保護眼鏡、ゴーグル型保護眼鏡を着用する。  
皮膚及び身体の保護具:長袖作業着を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

粒状

色

微黄白色～白色

臭い

特異なにおい

融点/凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/

データなし

可燃限界

引火点

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

**4.0～7.0 (20倍希釈水)**

動粘性率

データなし

溶解度

水(自由に混合)

n-オクタノール/水分分配係数(log 値)

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び/又は相対密度

データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性

通常の実験においては安定。

化学的安定性

通常の実験においては安定。

危険有害反応性

知見なし。

避けるべき条件

高温や直射日光を避けること。

混触危険物質

知見なし。

危険有害な分解生成物

窒素酸化物

11. 有害性情報		
急性毒性	経口:ラット LD <sub>50</sub> >5000mg/kg(推定値)であるため、分類 JIS で区分に該当しないとした。 経皮:ラット LD <sub>50</sub> >5000mg/kg(推定値)であるため、分類 JIS で区分に該当しないとした。 吸入:ラット LD <sub>50</sub> >20000mg/m <sup>3</sup> (推定値)であるため、分類 JIS で区分に該当しないとした。	
皮膚腐食性/刺激性	主成分において皮膚刺激性が認められないため、区分に該当しないとした。	
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	主成分において眼刺激性が認められないため、区分に該当しないとした。	
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:データ不足のため、分類できない。 皮膚感作性:主成分において感作性が認められないため、区分に該当しないとした。	
生殖細胞変異原性	データ不足のため、分類できない。	
発がん性	データ不足のため、分類できない。	
生殖毒性	データ不足のため、分類できない。	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため、分類できない。	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため、分類できない。	
誤えん有害性	データ不足のため、分類できない。	
12. 環境影響情報		
生態毒性		
水生環境有害性 短期(急性)	10mg/L<魚類(コイ)96hLC <sub>50</sub> <100mg/L (推定値)であるため、分類 JIS で区分3とした。	
水生環境有害性 長期(慢性)	データはないが、急性毒性が区分3であり、生物蓄積性が不明であるため、区分3とした。	
残留性・分解性	データなし。	
生体蓄積性	データなし。	
土壌中の移動性	データなし。	
オゾン層への有害性	データなし。	
13. 廃棄上の注意		
化学品(残余廃棄物)、当該化学品が附着している汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。	
14. 輸送上の注意		
国際規制		
海上規制情報	非該当	
航空規制情報	非該当	
国内規制		
陸上規制情報	非該当	
海上規制情報	非該当	
航空規制情報	非該当	
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	直射日光を避ける。粗暴に取り扱わない。 荷崩れ、落下などに注意する。容器が破損しないように注意する。 容器を投げない、落さないこと。容器の上に乗らないこと。 雨水等による容器内への浸水厳禁。 輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。	
緊急時対応措置指針	なし	
15. 適用法令		
薬事法	非該当	
労働安全衛生法	非該当	
毒物及び劇物取締法	非該当	
化学物質排出把握管理促進法	非該当	
消防法	非該当	

## 16. その他の情報

## ・参考文献

原料メーカーSDS

化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

産業中毒便覧

化学商品(化学工業日報社)

溶剤ハンドブック

## ・記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査した訳ではないため、情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。

重要な決定等にご利用される場合は、試験によって確かめられる事をお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、推奨用途上の通常的な取扱いを対象としたものなので、推奨用途から外れる特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

## ・問合せ先

担当部門 ケミカルサービス事業本部

電話番号 03-3267-4073 FAX 番号 03-3267-4106